

森林環境保全学特論 (2単位)

担当者氏名 中村幸人・武生雅明・福永健司・矢口行雄

◆学習・教育目標

林学専攻では森林の持続的な利用を可能にする保全のあり方を目指して、総合的な研究能力と管理能力を養う教育目標がある。その中で森林環境保全学特論では、組成と構造による植生型を成立要因と対応させながら理解し、さらに攪乱など、植生が崩壊したあとの動態について、遷移、物質生産、生物多様性の変化などについて理解を深める。また、崩壊地では人工地盤による修復、緑化による生態系の回復のための技術やモニタリング手法を習熟するために地質、表層地質、地すべり現象などについて理解を深める。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

森林型
生態系
生物多様性
持続的利用
治山砂防
緑化
モニタリング
土砂移動

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	ガイダンス	講義内容の説明	森林の種類、植生の復元は中村が担当する。遷移は武生が担当する。生態系森林の機能を理解するために物質循環における分解者の働きなど、最近注目されている菌類との共生なども、講義に取り入れていく(矢口)。治山・緑化に関する分野は特に「森林環境保全学特論実験」で取り扱う。
2	世界の植生・日本の植生	森林, 低木林, 草原の種類	
3	生態系の生物と環境	生態系を機能させる生物と環境	
4	植生遷移と遷移系列	異なる環境における植生遷移	
5	自然植生と代償植生	人間活動下での植生の破壊と成立	
6	遷移による属性の変化	遷移に伴う生態系の属性の変化	
7	遷移と生物多様性	遷移による生物相の変化を考える	
8	遷移と物質生産	遷移による生産量の変化を考える	
9	植生と成立基盤(1)	植生と地質の関係	
10	植生と成立基盤(2)	植生と表層地質の関係	
11	緑化による植生回復(1)	植栽種の選択と地盤の整備	
12	緑化による植生回復(2)	植栽計画と施工	
13	緑化後のモニタリング	植栽後のモニタリングと管理	
14	予備日		

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）
 指導教授により、適宜、周知する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）
 指導教授により、適宜、周知する。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト）

出席状況を鑑みて、レポート等により評価を行う。

◆その他受講上の注意事項

